

8月8日(月)

自分を合せる

聖書朗読 I コリント 9:19~23

自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい。 ペリピ 2:4

我が家に4歳になる娘がおりますが、彼女が居間に毛布を敷き詰めたいと言った時も、私の髪をとかしたいと言ったときも、私はダメと言いました。

私は自分で思っているほど、相手に自分を合せることの出来る人間ではないのかもしれない。自分なりの考えや、こうあって欲しいという期待があるために、自分を変えて周囲に合せることをせず、何事もこうあるべきだと既に自分で決めているのだと思います。

周囲に自分を合せることは、成熟した者に求められるものと思いますが、イエス様にある私たちの歩みには、決して欠かすことの出来ないものです。相手にとって良いと思うことのためには、その人のニーズに合わせて自分を変えるべきですし、イエス様を他者と分かち合おうと思ったら、その福音のチャンスを逃さないよう、自らを変えて、その状況に合わせる必要があるでしょう。

けれども、ここで大切なことがあります。それはバランスです。自分を変えて周囲に合せることが必要な場合と、自分を変えることなく揺るがずに堅く立っていなければならない場合があります。いずれの場合であるかは、イエス様が知恵をお与えになり、教えてくださるでしょう。イエス様とともにある歩みにおいて、イエス様は、私たちの前に立ちほだかって、問題に対処してくださるときもあれば、その場をしばし離れられることもありますし、抱えている問題を変えてくださる場合もあれば、その奥深くにある真理を示してくださる場合もあります。

この世は自分を中心に、あるいは、自分の計画通りに回っているわけではありません。4歳になる私の娘であっても同じです。私たちの中心に主をおきましょう。私たちは、その御愛によって変えられ、その働きのために用いられるのです。

讃美歌 219

祈り お父様。あなた様の子とされたことを感謝します。私を造りかえて、どのような状況にあっても、あなた様のみこころを知り、自分を変えて、あなた様の備えられた道に合せることが出来るようにしてください。
イエス様のお名前によって。アーメン。

ロビン・レーン
テキサス州 ラボック

今日の力

2016年8月8日～8月14日

翻訳 藤岡伸子

鈴木慈久

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

8月9日(火)

完全な者を目指して

聖書朗読 IIコリント 13:1~14

終わりに、兄弟たち。喜びなさい。完全な者になりなさい。慰めを受けなさい。一つ心になりなさい。平和を保ちなさい。そうすれば、愛と平和の神はあなたがたとともにいてくださいます。 IIコリント 13:11

新約聖書時代へのキリスト教復興を目指していた19世紀の改革者たちは、聖書の改訂訳をおおいに支持したようですが、このことは、聖書の改訂訳が聖書の内容を正確に伝え信頼できる内容とならなければ、教会の復興は決して起こらないとしていた彼らが支持したという点で、驚きに値することかもしれません。

同じ聖書箇所を翻訳の異なる聖書で読んでみると、新しい洞察が与えられものです。私も妻に気付かされたことがあります。それは、IIコリント13:9、11にあるギリシャ語の言葉が「restoration (完全な者)」と訳されている点でした。このrestore という語には、繕う、直す、完全なものにする、完璧にする、与える、備えるといった意味があります。

福音宣教や教会の復興は、当時のアメリカのキリスト教復興運動において、成功をおさめたものと言えますが、この完全な者を目指す歩みは、現在も継続しているもの、かつ、個人的なものではないでしょうか。皆さんが、回復して完全にしたい点はいかなる点なのでしょう。喜びを、他者を慰め、相手を受け入れ、平和に過ごし、完全な者を目指す他者を励まし、神を他者に示していくという姿勢をしっかりと持ち続けることを、私たちの中心に据えておきましょう。勇気づけて欲しいと願っている兄弟姉妹が傍にいるかもしれません。「よく頑張っていますね」、「愛していますよ」、「完全な者を目指しましょう」、「神はあなたの中心におられます」といった言葉で、他の人を励ましましょう。

讃美歌 401

祈り 親愛なるお父様。一致について語るだけでなく、実践することができるようにしてください。あなた様のみこころを自分の前におかせてください。そして、私が赦されたように、私も他の人を赦すことができるようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

バリー・ポイナー

ミズーリ州 カークスヴィル

8月10日(水)

キリストについての預言が明らかに

聖書朗読 ガラテヤ 3:7~14

あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。あなたがわたしの声に聞き従ったからである。 創世記 22:18

パウロの手紙は、救いが遙か昔から約束されていたものである事を主題としています。手紙に記されているように、聖書(旧約聖書)にはこう書かれています。『聖書はあなたに知恵を与えて、キリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができるのです。』(IIテモテ 3:15)

パウロは、「やがて来られるお方はアブラハムの子孫であり、そのお方によってすべての国々は祝福を受け(創世記22:18)、あなたの身から出る世継ぎの子を、あなたの後に起こし、彼の王国を確立させる(IIサムエル 7:12)」という預言、また、ダニエルが預め示した『人の子のような方が天の雲に乗って来られ、・・・主権と光栄と国が与えられ、諸民、諸国、諸国語の者たちがことごとく、彼に仕えることになった。その主権は永遠の主権で・・・』(ダニエル 7:13~14)という箇所にある預言が、イエス様について示されたものだとして理解していました。

こうした預言の箇所を読んだだけでは、最初はその意味が理解できないかもしれませんが、新約聖書は、理解に苦しむこの預言を解き明かしています。この預言は、従順な信仰によって(ガラテヤ 3:8)『アブラハムの子孫』に対する救いが認められたことを示し、また、イエス様について、『ダビデの子』であり、『ユダ族から出た獅子、ダビデの根』(黙示録 5:5)とされたお方であって、『天においても、地においても、いっさいの権威が与えられている』ということを示しています。

新約聖書によって、預言の確信が与えられたことは素晴らしいことです。そしてさらに、『いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放した』(ローマ 8:2)とされたクリスチャンの喜びは、どれほど素晴らしいものでしょう。

讃美歌 327

祈り 聖なるお父様。喜びと讃美をもって、あなた様による素晴らしい救いについて感謝を捧げます。私たちの心を、あなた様の愛の喜びで満たし、周りの人をあなた様の元へ導くことが出来るようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ハロルド・シモンズ
テネシー州 スミルナ

8月11日(木)

舌を制す

聖書朗読 エペソ 4:29~32

ことばが私の舌にのぼる前に、なんと主よ、あなたはそれをことごとく知っておられます。
詩篇 139:4

自分の欠点は表面的にどんなに取り繕っても、それは、言葉によって明らかに
なってしまうものではないでしょうか。

このような経験は、皆さんもありませんか。初対面の人が第一印象は大変好印象
だったのに、口を開いたらその素晴らしい輝きは一気に消え失せてしまったとい
う経験。その美しい唇から出てくるのは、冒瀆的な言葉や俗悪な言葉を使い、恨み
のこもった憎悪、語る内容は愚かで馬鹿げたことばかり。そこで、アブラハム・リ
ンカーンは、「喋り続けて疑いを晴らすより、黙り続けて蔑みを受けよ」という名言
を残したのかもしれない。

私たちは、嘘をついたり、誰かを批判したり、苦々しい思いや怒りをぶちまけ
たり、誰かを侮辱したりしてしましますが、その同じ舌で、神の真理や愛を語り、
神を褒め称え、親切な言葉や励ましや憐れみの言葉を語ります。私たちは、醜い
歩みを選び取るなら、他の人を落胆させ、聖霊を悲しませる（エペソ4:30）こ
ととなるでしょう。けれども、徳の高い歩みを選ぶなら、他者を元気づけ、神に栄
光を帰すことができるのです。

誰かに嫌な思いをさせられたことなど、いつまでも苦々しく思っている限り、
この舌は制することはできません。そのような苦々しい思いを抱くのではなく、イ
エス様が私たちにどれだけのことをしてくださったか、また、何度赦してくださ
ったかという事に思いを向けるなら、聖霊がこの舌を有用な目的に用いてくださる
ようになります。あなたはどちらの道を選びますか。

讃美歌 339

祈り 尊い主よ。生きた供え物として、この身体そして舌もすべてあなた様
にお捧げ致します。この偽りの世にあって、どうか真理を語らせてく
ださい。悪の情報が氾濫するこの世に、良い知らせを広め、争いの只
中にあっても、あなた様の御愛と慈しみの心を世に示す者とさせてく
ださい。

イエス様のお名前によって。アーメン。

リチャード・N・アディ
オレゴン州 グレシャム

8月12日(金)

他者を助ける

聖書朗読 ピリピ 4:10~20

私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。

ピリピ 4:13

人を助けるということは、まず愛を示し、教え、その上で、その人が神の助け
を受けられるようになり、さらには、その人自身が他の誰かを助ける者となれるよ
う備えてあげることではないでしょうか。人を助けるという働きには、小石を池に
放ったときにできる輪のように、波及効果があるものです。

けれども、そうしたことはすべて、まず神に助けを祈り求めることから始まり
ます。神の導きと歩むべき方向、そして、持つべき意志を神に祈り求めると、神は
天の御国で私たちに望まれるのと同じビジョンと使命に向けて、私たちを導いてく
ださいます。

神は、私たち自らが従うことを望み、そう決意するとき、いかに不完全で欠け
た者であっても、私たちを用いてくださいます。そして、神に用いられて行く過程
で、私たちは成長し、より望ましい形で奉仕を行う力が与えられるようになります。
アウグスティヌスの言葉に、「神は風を備える。だが人が帆をあげなければならな
い」とありますが、神が、私たちを奉仕の出来る者としてくださるのです。

神から委ねられた賜物を受け止め、

キリストと兄弟姉妹たちのために、それを用いなさい。

神はそれを成長させ、天の星のように輝かせてくださいます。

———— John Sutherland Bounnell ————

讃美歌 390

祈り 全能の愛なる神様、私たちに励まし、天の御国で、あなた様とともに働
くことができるようにしてくださることを感謝します。この世にあって
も、あなた様のご意志を成し遂げられるよう、力をお与えください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

S・ビル・ジメネス

カリフォルニア州 サンフランシスコ

8月13日(土)

備 え は 出 来 て い る か

聖書朗読 I テサロニケ 4:13~18

もしこの肉体のいのちが続くとしたら、私の働きが豊かな実を結ぶことになるので、どちらを選んだらよいのか、私にはわかりません。 ピリピ 1:22

お腹の赤ちゃんにとって、この世への誕生とはいかなるものだろうか。そんな事を考えると、私たちの死も、どのようなものだろうかと思います。死と誕生とを比較してみることはできないでしょうか。

胎児に思考があるかどうかは分かりませんが、もしあるとしたら、誕生のプロセスが始まったとき、彼らは何を考えていたでしょう。おそらく、それまでは、周囲から閉ざされた流体の中で安全に守られ、心地良い環境にあり、母親の声を聞き、母親の体内の消化の働きまで分かっていたかもしれません。それが何の予告もなく、突如としてすべてが変わるのです。母親の子宮が締め付けられ、まさに締め出される感覚を味わったのではないのでしょうか。居心地の良かった袋が裂けて水が溢れ、赤ん坊は出口へと導かれるのです。

胎児は、温かく心地よい母親の胎内に安全に留まることを、むしろ望んでいたかもしれません。この誕生のプロセスの乱暴とも思われる経験が終わったら、次に何が起こるか分からないのですから。

死に向かうときも同じように、人は、未知の世界に対する強い恐怖心を抱き、身体は衰えてもこの地上に留まっていたいと願うものではないでしょうか。

最後を看取る家族は、どんな言葉をかけるでしょう。「まだ行かないで」と言うのでしょうか。それとも、「この地上に留まって苦しむよりも旅だった方がいり」と言うのでしょうか。

イエス・キリストにあるいのちを与えられた私たちにとって、死は、恐れるものではなく、むしろ私たちの望むものとなることを願います。

讃美歌 490

祈 り 親愛なるお父様、あなた様と共にいる天に辿り着くことを、喜びをもって待ち望むことができるようにしてください。死に対して恐れを抱くのではなく、喜びをもって臨めるよう、周囲の人たちをいかに励ますべきか教えてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ノーマ・プリヴィット

カリフォルニア州 サウザンドオーク

8月14日(日)

食 卓 の 塩

聖書朗読 I テモテ 4:11~16

あなたがたのことが、いつも親切で、塩味のきいたものであるようにしなさい。そうすれば、ひとりひとりに対する答え方がわかります。 コロサイ 4:6

「しあわせの隠れ場所」という映画を観たことがありますか？ ビッグ・マイクという十代のホームレスを迎え入れた家族の物語です。印象に残る場面の一つは、ある休日に家族がばらばらに食事をしていた時のことです。何人かは自分のテレビを観ており、他の人たちはテーブルで一人で食べています。母親はそのようすを見て、彼らと一緒にテーブルを囲ませるようにしました。

みんなと一緒に食事を楽しむ家族はより力強くなります。研究者によれば、普段から両親や兄弟と一緒に食事をする子どもはより高い成績を得たり、人と深い絆を築いたり、仲間からのプレッシャーにくじけない能力が発達したりするそうです。団らんというのは大切なものですね！

団らんを良い状態にするための、「SALT (塩)」の四文字でのあいうえお作文があります。(訳注：意味内容のみ訳します)

- ・今日一日、神様からどんな恵みがあったかを話し合う。
- ・家族一人ひとりが特別で大切であるということを確かめ合う。
- ・努力したこと、上手くいったことについて家族が認めてくれる時に、それをよく聞く。
- ・応答の中で神様のすばらしさを伝える。

讃美歌 第二編 26

祈 り 主よ。私たちが食卓の中で家族に信仰の塩を振りかけることができるように助けてください。

イエスの御名により。アーメン。

エドワード・J・ロビンソン
テキサス州 テレル